

3/11 (水) 3/20 (金) 最初と最後の卒業式

別れの季節となる3月、町内の小中学校（中学校11日、小学校20日）でも卒業式が行われました。昨年開校した青葉中学校では第1回目、今年3月に閉校となった4小学校では最後の卒業式となりました。

青葉中学校の林豊夫校長は、「統合でよかったこと、大変だったことが沢山あったと思う。この一年で青葉中学校の基礎をしっかり築いてくれた。」とあいさつ。卒業証書を受け取った127名の卒業生は、一輪の花を保護者に手渡し、感謝の想いを伝えました。

駒場小学校の25名の卒業生は、6年間を振り返りながら「どれもが心に残る大切な思い出。楽しかった思い出を忘れません。」と母校に別れを告げました。



青葉中学校卒業式



駒場小学校最後（第2841号）の卒業生

3/18 (水) ラムサール条約事務局長 涸沼を視察



オオワシの模型を手にするブリッグス氏（写真左から2番目）

ラムサール条約事務局長のクリストファー・ブリッグス氏が、ラムサール条約湿地登録候補地の涸沼を視察しました。

ブリッグス氏は涸沼自然公園、広浦、親沢などを視察。涸沼自然公園では、涸沼を一望できる高台からの眺めに、「とてもきれいなところですね。」と感想を述べました。

その後、広浦に移動し、大涸沼漁業協同組合の桜井組合長の説明を受けながらシジミ漁の様子と、シジミやウナギを獲るための漁具を視察。人力による作業と、資源保護のため規定の大きさを下回る獲物は獲らない方針に感心した様子でした。

3/27 (金) いばらき戸籍共同システムの整備及び運営に関する協定締結式

この度、茨城町、那珂市、つくばみらい市、小美玉市、五霞町の3市2町で、戸籍システムを共同で整備し運営する協定の締結式が茨城県市町村会館で行われました。

この協定は、各市町の戸籍データが入ったサーバーを民間のデータセンターに設置するもので、県内初の試みです。この協定により、経費削減と事務の効率化、災害時の業務継続に繋がると期待されています。



3/19 (木) ポットラックパーティー

小堤地区学習等供用施設において、参加者が料理を一品ずつ持ち寄る「ポットラックパーティー」が催されました。

このパーティーには、町民教養講座「世界の料理教室」の講師（中国とインドネシア）も参加。この事業に協賛した国際交流クラブの金村さんは、「たくさんの方に参加していただけてびっくり。今後も活動を継続し、より多くの外国の方に参加してもらえようになりたい。」と話してくれました。



2月～3月 今年も涸沼にオオワシがやってきた

毎年1月下旬から2月上旬に涸沼に飛来するオオワシが今年も来てくれました。オオワシ飛来の一報がでると、涸沼にはその勇姿を写真に収めようとするカメラマンで賑わいます。

ここに掲載している写真は、宮ヶ崎の海老沢大愛さん（9歳）が2月23日に撮影したものです。海老沢さんは近所の杉の木にオオワシがとまっているのを見て、望遠鏡とスマートフォンのカメラを駆使して約2時間かけて撮影したとのこと。海老沢さんは、「今度は飛び立つ所を撮影したい。来年も涸沼に戻ってきてほしいです。」と話してくれました。



2/5 (木) 愛知県瀬戸市、エコ常井地区営農組合を訪問



愛知県瀬戸市の「瀬戸地域アグリカルチャー推進協議会」が、エコ農業いばらき「優良地区」に認定された茨城町常井の「エコ常井地区営農組合」を訪れ、環境保全型農業の取り組みを視察しました。エコ常井地区営農組合は、常井地区の農家が集まり、共同作業により地域の農業を担うとともに、減農薬、減化学肥料など環境にやさしい農業への取り組みや、地域に根ざした様々な活動を精力的に行っています。

視察では、雨ヶ谷啓治組合長が減化学肥料での栽培方法や、米ぬか等を発酵させて作ったボカシ肥料の作り方などについて説明しました。瀬戸地域アグリカルチャー推進協議会では、この視察を契機に、瀬戸市の環境保全型農業を実現したいとしています。

3/13 (金) わいわい発表会開催

今回で7回目となる「わいわい発表会」がゆうゆう館で行われました。

子育てボランティア、関係各機関による歌や劇の発表、保健師による健康育児相談・身体測定、管理栄養士による食の相談・幼児食メニューの紹介、子育て支援に関する情報提供等が実施されました。

ある関係者は、「子育て親子を応援する方々がいることを知ってもらい、安心して子育てをして欲しい。」と、この発表会に込められた想いを語ってくれました。



3/8 (日) 地域の安全と安心を守る！ 野曽消防団に最新鋭消防ポンプ自動車配備

茨城町消防団第二分団第二部（野曽）に最新鋭消防ポンプ自動車（ポンプ車）が配備されました。

車両の交付を受けた野曽消防団の加納貴久部長は、「今後も町民の安全の為に万全を期します。」と決意を述べました。

交付された消防ポンプ車は、放水圧力をボタン一つで設定できる機能やポンプ性能の向上により、迅速な消防活動に貢献できると期待されています。

